

1 学校教育目標

かしこく やさしく 元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

| | |
|---------|--|
| ○学校像 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供の知を高める学校（学力の定着、学ぶ意欲の向上） ・子供の徳を深める学校（思いやりの心、自他を尊重する心の醸成） ・子供の体力を高める学校（健康な心と体の育成） |
| ○児童・生徒像 | <ul style="list-style-type: none"> ・かしこい子（めあてをもち、すすんで学習する子） ・やさしい子（自分と周りの人を大切にする子） ・元気な子（運動を好み、楽しむ子） |
| ○教師像 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童理解と自己研鑽に努め、児童の成長に全力を注ぐ教師 ・組織の一員としての自覚をもち、協力して職務を遂行する教師 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1. 学校の現状

明治33年創立、歴史と伝統ある学校で現在は通常学級12学級、特別支援学級3学級の編成である。児童は学ぶことに興味をもち、真面目に取り組んでいる。一方、自信をもつこと・自己肯定感に関しては課題がある。教職員は、若手教員が多い中、先輩の教員が学習指導、生活指導、校務分掌等において丁寧に指導している。保護者、地域は本校の教育活動を理解し、協力的である。開かれた学校づくり協議会やPTAを中心に、朝の見守りや長期休業中のパトロール、朝学習の丸付けや図書ボランティア、校外学習の際の付き添い等、この他にも学校への協力を惜しまない。

2. 前年度の成果と課題

重点的な取組事項1 学力向上アクションプラン（基礎学力の向上）

学力の分析、補充指導を計画的に行った。校内研究はプログラミング的思考の育成に取り組んだ。様々な教科で研究授業の実施ができた。

重点的な取組事項2 教師の指導力向上

ICT活用に向けて、教師間で研修を重ね、授業での活用につなげられた。さらに充実させていく。

重点的な取組事項3 児童の心身の育成の充実

投力はコロナ禍もあり、結果はかなり低かった。体育科で「ボールを力強く投げる」学習・活動を重視して取り組む。

4 重点的な取組事項

| | 内 容 | 実施期間（年度） R:令和 | | | | |
|---|--------------|---------------|----|----|----|----|
| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
| 1 | 学力向上アクションプラン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 教師の指導力向上 | | | | | |
| 3 | 児童の心身の育成の充実 | | | | | |

5 令和4年度の重点目標

| 重点的な取組事項－1 | | 学力向上アクションプラン | | | | | | | |
|---------------|-------------|----------------------------|-----------------------|---|-------------------------------|--|-----------|-------------|-------------|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 (目標通過率) | | 実施結果 (通過率結果) | | コメント・課題 | | 達成度 ◎○△● | |
| 区調査の目標通過率85% | | 年度末までに区調査を再実施し、通過率を90%にする。 | | | | 自己評価の際に記入 | | | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | | | | | |
| 新・継 | アクションプラン | 対象・実施教科 | 頻度・実施時期 | 具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように) | 達成確認方法 | 達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度) | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 ◎○△● |
| 1 継続 | 朝学習・放課後補充教室 | 全児童 国語、算数 | 朝:水金 放:月火 木金 | 朝学習(担任) 国語:現学年漢字習熟 算数:さかのぼり学習 プリント、AIドリル等 放課後(担任・副担任) 朝学習の点検・復習、当該学年のつまずきの解消 | 定着度確認テスト(区調査の再テスト)(7月・12月・2月) | 12月までに実施する定着度確認テストで目標値を90%の児童が通過する。 | 自己評価の際に記入 | | |
| 2 継続 | ベーシックタイム | 全児童 国語、算数 | 各学級 1時間/週 | 担任 週1時間、つまずきが見られた国語か算数の学習 | つまずき部分の学習終了後、定着度を測る | 既習事項の定着度90%以上。 | | | |
| 3 継続 | 家庭学習習慣の定着 | 全児童 全教科 | 通年 | 担任 家庭学習カードの提出年3回、提出率を算出 | 家庭学習カード提出提出率の算出 | 家庭学習提出率88%以上。 | | | |
| 4 継続 | 読書活動の充実 | 全児童 国語 | 適時 | ・読書記録カードの活用 ・教員、図書ボランティア等による読み聞かせや本の紹介を実施 | 読書記録カード | 全児童の年間平均読書冊数を30冊以上とする。 | | | |
| 5 継続 | ニュース見つけた | (4)5・6年生 国語 | 月曜～ 金曜 クラス内で交代制 | 担任 各学級に毎日一紙配布し、気になった記事の内容と考えをまとめさせる。 | 記事の内容のまとめと自分の考えの記述 | 8月末までに全員が取り組む。秋以降は詳しく自分の思いを書き表せるようにする。 | | | |

| 重点的な取組事項－２ | | 教師の指導力向上 | | | |
|----------------------|---|--|------------------|---------|-----|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 教師の各職層における資質・能力の向上 | | 足立スタンダードに基づく授業観察カードにおいて、評価レベルを平均で2以上上げる。 | 自己評価の際に記入 | | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| ICTを活用した授業の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・若手研修会(年10回)でICT研修会を設定 ・プログラミング的思考を取り入れた授業プラン案の活用(全学年) ・タブレット端末等を活用した効果的な授業づくり(全学年) | <ul style="list-style-type: none"> ・若手研修会のうち5回をICT研修会とし、指導技術の向上につなげる。 ・プログラミング的思考を育成する授業を全学年で実施。 ・タブレットの効果的な活用例を全学年で提案。 | 自己評価の際に記入 | | |
| 校内研究会・校外研修の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会で分科会提案の研究授業の実施 ・毎月の区小研への教員の全員参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・分科会ごとに研究授業(事前授業含む)を実施し、分科会組織で取り組む。 ・担当教科の研究発表会等への参加。職員夕会や研修会等で報告。 | | | |
| SDGsの理念を取り入れた教育活動の実施 | SDGsの17の目標とカリキュラムマネジメントの視点で関連付けた授業の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等でSDGsの17の目標に関連付けた授業を全学年で実施。 | | | |

| 重点的な取組事項－3 | | 児童の心身の育成の充実 | | | |
|---------------|---|--|------------------|---------|-----|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 児童の心と体の健全な成長 | | 年度末の児童、保護者、地域、教員の学校評価アンケート肯定的なもの85% | 自己評価の際に記入 | | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 豊かな心の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・「花畑ビューティフルスクール運動」を実施し、児童自ら居心地のいい学校づくりを目指す。 ・いじめの解消率の向上 ・QU調査の分析を生かした学級経営 | <ul style="list-style-type: none"> ・「居心地のいい学校づくり」アンケートの実施、良好な回答80%以上。 ・いじめアンケートの結果を基にした未然防止と早期対応 ・QU調査の分析と共有。 | 自己評価の際に記入 | | |
| 健康な身体の成長 | <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間外遊びをする児童85% ・運動能力調査の結果の向上（前年比0.5m） ・外部機関と連携した健康教育の授業、年2回以上の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・日直、生活指導部会を中心とした声掛けと、教員も加わった外遊びの実施。 ・年間計画に基づいた投力向上の取組の充実。 ・保健師、学校医その他を講師とした授業の実施。 | | | |
| 特別支援教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会の開催月1回 ・特別支援教育に関する校内研修会の実施（年4回） ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会における支援を要する児童と家庭についての協議の実施。 ・特別支援コーディネーター等による事例研修会の実施。 ・特別支援学級の授業公開と指導法の共有。 | | | |

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）